

地方提案型料金に関する社会実験の概要と結果

1. 大都市の近郊の交通対策

都道府県	路線名	実験の目的	実験の方法 (割引率/実験期間)	実験の効果	高速・有料道路 の交通量変化	実験に関する問い合わせ先
千葉県他	東京湾アクアライン	<u>混雑緩和</u> ・湾岸道路等の交通の円滑化 ・アクアラインの利用促進	約 23%割引/ ETC 限定: H14.7.19-H16.3.31	・全体交通量は、約 6%増加。(約 11,960 台/日→約 12,700 台/日) ・東京湾アクアラインの ETC 車の利用台数が約 4.2 倍に増加(約 710 台/日→約 2,970 台/日) ・ETC 利用率は約 37%(H16.2 時点(全国平均の約 2.5 倍))	全体交通量 約 6%増加 ETC 交通量 約 4.2 倍 (H15.6/H14.6)	部署: 千葉県県土整備部道路計画課高速道路促進室 担当: 矢口 住所: 千葉市中央区市場町 1-1 TEL 043-223-3297 FAX 043-224-3150
大阪府	阪神高速 11 号池田線 (特定料金区間)	<u>混雑緩和</u> ・周辺の国道 176 号、173 号等の渋滞緩和 ・池田線の利用促進	約 33%割引 / H15.11.17-30	・一般道路の交通量は約 3(平日: 19,426→18,791 台/日)-6(休日: 14,298→13,504 台/日)%減少 ・有料道路の交通量変化 約 2,500 台/日→約 3,000 台/日: 約 500 台増 (阪神高速池田線神田出入口の実験前約 2 週間の日平均交通量と期間中の日平均交通量の変化)	約 1.2 倍	部署: 大阪府土木部交通道路室道路整備課交通計画グループ 担当: 石田 住所: 大阪市中央区大手前 2-1-22 TEL: 06-6941-0351 FAX: 06-6944-6787

2. 大都市の沿道環境対策

都道府県	路線名	実験の目的	実験の方法 (割引率/実験期間)	実験の効果	高速・有料道路 の交通量変化	実験に関する問い合わせ先
兵庫県	阪神高速 5 号湾岸線	<u>沿道環境の改善</u> ・並行する国道 43 号・阪神高速 3 号神戸線の沿道環境の改善	大型車 1000 円→600 円に割引 [環境ロードプライシング試行の料金をさらに 200 円割引(計 400 円割引)] / H16.2.1-29	・施策利用台数(環境ロードプライシング試行及び社会実験の割引適用大型車台数)は、約 1,200 台/日が約 1,980 台/日となり、約 780 台/日増加(約 1.6 倍) ・阪神高速 3 号神戸線等から阪神高速 5 号湾岸線への転換交通量は、9,480 台/日から 9,780 台/日へ平日平均で約 300 台増加したものと推定 ・国道 43 号、阪神高速 3 号神戸線、阪神高速 5 号湾岸線の全体の交通量に大きな変化はみられず ・大気質については、気象の影響が大きく、評価が困難。騒音・振動については、実験前と実験中で顕著な差はみられず	施策利用台数 約 1.6 倍 転換交通 約 300 台増加 (推定)	部署: 兵庫県県土整備部土木局道路計画課 担当: 久保 住所: 神戸市中央区下山手通 5-10-1 TEL: 078-362-9255 FAX: 078-362-3941

3. 地方都市の通勤混雑対策

都道府県	路線名	実験の目的	実験の方法 (割引率/実験期間)	実験の効果	高速・有料道路 の交通量変化	実験に関する問い合わせ先
北海道	道東自動車道	<u>混雑緩和</u> ・並行する帯広市内の国道 38 号等の渋滞改善 ・道東自動車道の利用促進	パスポート / H15.11-H16.1	・一般道路の分担率が約 84%から約 80%に約 4%改善 ・有料道路の交通量変化 約 600 台/日→約 1,100 台/日: 約 500 台増(十勝清水～池田における対前年比の全車全日平均断面交通量。交通量増には H15.6 に開通した池田～本別・足寄間の延伸効果も含まれる)	約 1.8 倍	部署: 北海道建設部道路計画課高速道室 担当: 宮下 住所: 札幌市中央区北 3 条西 6 丁目 TEL: 011-231-4111 FAX: 011-232-6329
青森県	みちのく有料道路	<u>混雑緩和</u> ・並行する国道 4 号の渋滞緩和、沿道環境改善 ・みちのく有料道路の利用促進	約 21%-約 37% / H15.12.1-21	・国道 4 号の平均日交通量 18,100 台→17,400 台(4%減) ・最大渋滞長 400m→300m に 100m 減少(25%減) ・青森市山王林で、騒音値が減少(昼間: 73dB→72dB、夜間: 68dB→66dB) ・有料道路の交通量変化 約 4,800 台/日→約 5,500 台/日: 約 700 台増	約 1.1～1.2 倍	部署: 青森県県土整備部道路課 担当: 中道、田中 住所: 青森市長島 1-1-1 TEL: 017-734-9648 FAX: 017-734-8189
茨城県	常磐自動車道、日立有料道路	<u>朝・夕の通勤交通の混雑緩和</u> ・並行する国道 6 号等の渋滞緩和	約 50%割引 / H15.11.10-12.10	・国道 6 号等市内一般道路の平日交通量が 4%減少(2,600 台/日～3,800 台/日) ・生活道路交通量が最大 6%減少(5,309 台/日→5,016 台/日) ・旅行速度の向上により、平日朝 7 時台の路線バスの所要時間が約 13 分～18 分短縮 ・渋滞損失額が平日で 1,500 万円/日削減 ・有料道路の交通量変化 4,624 台/日→7,966 台/日: 3,342 台増(31C 間平均、平日)	約 1.7 倍 (平日 31C 間平均)	部署: 日立市都市建設部都市政策課 担当: 佐藤 住所: 日立市助川町 1-1-1 TEL 0294-22-3111 FAX 0294-24-7296

新潟県	日東道、北陸道	朝の通勤交通の混雑緩和 ・並行する新新バイパス(国道7号)、新潟バイパス(国道8号)等の渋滞緩和	約50%割引 / 秋期：H15.10.1～H15.10.31 ETC限定： H15.10.1-H16.2.29 冬期：H16.2.1-29	・新新バイパスの朝の渋滞長が約4割減少(4.0km→2.25km)、朝の渋滞継続時間が約5割減少(170分→90分)、朝の旅行速度約13km/h上昇、朝の所要時間が平均7分減少(33分→26分) ・新潟西バイパス小新IC～新新バイパス新発田IC間の渋滞損失改善額22億円/12h・年間(平日246日)、CO2削減効果1.4%/12h・年間(平日246日) ・有料道路の交通量変化 2,685台/日→4,653台/日：約2,000台増(ICﾊﾞｲﾊﾟｽ交通量、軽・普通車)	約1.7倍 (ICﾊﾞｲﾊﾟｽ交通量、軽・普通車)	部署：新潟県土木部道路建設課高規格道路推進室 担当：佐野 住所：新潟市新光町4-1 TEL 025-280-5406 FAX 025-285-6225
	磐越道、北陸道、日東道	朝の通勤交通の混雑緩和 ・並行する国道49号、116号、403号等の渋滞緩和	約50%割引 /秋期：H15.11.4-14 冬期：H16.2.1-29	・国道403号の朝の渋滞長が約2割減少(2.4km→1.9km)、朝の渋滞継続時間が約3割減少(100分→75分)、朝の所要時間6分減少(23分→17分) ・有料道路の交通量変化 2,037台/日→2,771台/日：約700台増(ICﾊﾞｲﾊﾟｽ交通量、軽・普通車)	約1.4倍 (ICﾊﾞｲﾊﾟｽ交通量、軽・普通車)	
	北陸自動車道(糸魚川)	朝の通勤交通の混雑緩和 ・並行する国道8号の渋滞緩和	約50%割引 /秋期：H15.11.4-28 冬期：H16.1.15-3.15	・(秋期)国道8号の平日交通量が約6%減少(9,270台/日→8,700台/日)、朝の渋滞長が約4割減少(1.4km→0.9km)、朝の渋滞継続時間が約3割減少(70分→50分)、朝の所要時間が平均約5分減少(34分→29分) ・(秋期)渋滞損失改善額約4億円/12h・年間(平日246日) ・(冬期:降雪日)国道8号の平日交通量が約6%減少(7970台/日→7510台/日)、朝の渋滞長が約2割減少(4.6km→3.8km)、朝の渋滞継続時間が約1割減少(90分→80分)、朝の所要時間が平均約3分減少(46分→43分) ・有料道路の交通量変化 (秋期)約170台/日→約450台：約280台増(ICﾊﾞｲﾊﾟｽ交通量、軽・普通車) (冬期)約180台/日→約370台：約190台増(ICﾊﾞｲﾊﾟｽ交通量、全車種)	秋期：約2.6倍 (ICﾊﾞｲﾊﾟｽ交通量、軽・普通車) 冬期：約2.1倍 (ICﾊﾞｲﾊﾟｽ交通量、全車種)	
富山県	北陸自動車道(滑川～朝日)	朝の通勤交通の混雑緩和 ・並行する国道8号の渋滞緩和	約50%割引 /H15.11.4-24	・国道8号の平均交通量が約10%減少(2,900台/2h→2,600台/2h)、最大渋滞長が700m→300mに半減、朝の平均旅行速度38.8km/h→43.3km/hに上昇、朝の所要時間46分→41分と約5分減少 ・渋滞損失改善額591万円/日(平日) ・有料道路の交通量変化 約1,800台/日→約3,900台/日：約2,100台増(対象IC区間のみ利用の軽・普通車のみ)	約2.2倍 (対象IC区間のみ利用の軽・普通車のみ)	部署：富山県土木部企画用地課 担当：能沢 住所：富山市新総曲輪1-7 TEL 076-444-3316 FAX 076-442-7954
富山県	北陸自動車道(小杉～立山)	混雑緩和 ・並行する国道8号や主要な地方道の渋滞緩和	約50%割引 /H16.3.1-10	・(主)富山小杉線のピーク時交通量が約5%減少(3,220台/h→3,060台/h)、朝の平均旅行速度37.3km/h→41.2km/hに上昇、朝の所要時間49分→44分と約5分短縮 ・有料道路の交通量変化 約3,600台/日→約4,700台/日：約1,100台増(対象IC区間のみ利用の全車種)	約1.3倍 (対象IC区間のみ利用の全車種)	部署：富山県土木部企画用地課 担当：能沢 住所：富山市新総曲輪1-7 TEL：076-444-3316 FAX：076-442-7954
石川県	北陸自動車道	朝の通勤交通の混雑緩和 ・並行する国道8号の渋滞緩和	実験：約30%割引 / H15.12.1-5 実験：ETC限定約50%割引 /H16.1.19.-3.12	【実験】 ・国道8号の朝の渋滞長は約3割減少(約1.8km→約1.2km)、朝の渋滞継続時間が約7割減少(60分→20分)、朝の旅行速度(浅野川橋～千木北交差点)が29.6km/h→44.0km/hに上昇 ・有料道路の交通量変化 約4,600台/日→約6,400台：約1,800台増(ICペア交通量、全車種、平日) 【実験】 ・ETC利用率は1.7倍に増加 ・有料道路の交通量変化 約290台/日→約500台：約210台増(ICペア交通量、ETC車、全日)	【実験】 約1.4倍 (ICペア交通量、全車種、平日) 【実験】 約1.7倍 (ICペア交通量、ETC車、全日)	部署：石川県土木部道路建設課 企画係 担当：竹俣 住所：金沢市鞍月1-1 TEL 076-225-1722 FAX 076-225-1723
兵庫県	播但連絡道路	朝夕の通勤交通の混雑緩和 ・並行する国道312号の渋滞緩和 ・有料道路の利用促進等	最大50%割引回数券 / H15.9.1-11.30	・国道312号の最大時間交通量が約2-7%(20-100台)減少、最大渋滞長は約3-7割(70～520m)減少	利用台数が約200台/日増加	部署：兵庫県道路公社建設部企画課 担当：北村 住所：神戸市中央区下山手通4丁目18-2 TEL:078-232-9635 FAX:078-232-9640

滋賀県	湖西道路	<u>混雑緩和・沿道環境改善</u> ・並行する国道 161 号沿道の渋滞緩和、環境改善等	約 50%割引 / H15.10.18-31	・国道 161 号の交通量は約 4～9%(1,000～2,000 台/日)減少、琵琶湖大橋交差点で平日 18 時台最大渋滞長 2.4 km→ほぼ解消、交差点通過時間も 14 分→1 分へ ・国道 161 号大津市本堅田で平日(夜間)騒音が 2db改善 ・有料道路の交通量変化 約 13,400 台/日→18,200 台/日:約 4,800 台増(坂本北 IC～仰木雄琴 IC の実験前1週間日平均交通量と期間中日平均交通量の変化)	約 1.4～1.5 倍	部署:滋賀県土木交通部道路課 担当:三和 住所:大津市京町 4-1-1 TEL: 077-528-4132 FAX:077-528-4903
滋賀県	日野水口有料道路	<u>混雑緩和・沿道環境改善</u> ・並行する国道 307 号の渋滞緩和、周辺道路の沿道環境改善	全車種一律 100 円 / H15.10.18-31	・現道(国道 307 号)の交通量が平日で約 7%(500 台/12h)減少 ・有料道路の交通量変化 約 1,800 台/日→約 2,500 台/日:700 台増(実験前1週間日平均交通量と期間中日平均交通量の変化)	約 1.4 倍	部署:滋賀県土木交通部道路課 担当:三和 住所:大津市京町 4-1-1 TEL: 077-528-4132 FAX:077-528-4903
島根県	山陰自動車道、安来道路、松江自動車道	<u>混雑緩和</u> ・並行する国道 9 号等の渋滞緩和	実験 :約 30%割引回数券 /H15.9.18-H16.2.29 実験 :約 50%割引 / H15.10.20-29	・国道 9 号玉湯町の交通量が約 7%減少(30,300 台/日→28,300 台)、玉湯交差点の最大渋滞長が約 35%減少(約 3,400m→2,200m) ・国道 9 号東出雲町の交通量が約 5%減少(27,500 台/日→26,200 台/日)、五反田交差点の最大渋滞長が約 27%減少(1,100m→800m) ・有料道路の平日交通量変化 約 6,500 台/日→約 9,400 台/日:約 2,900 台増(山陰自動車道)	約 1.5 倍 (山陰自動車道)	部署:島根県土木部 高速道路推進課 担当:小宮山 住所:松江市殿町 8 TEL 0852-22-6134 FAX 0852-22-5190
岡山県 岡山市	山陽自動車道、岡山自動車道	<u>混雑緩和</u> ・並行する国道 180 号等の渋滞緩和	約 50%割引 / H16.1.20-3.5	・国道 180 号の交通量減少傾向、特に平日朝(7 時～9 時)の上り方向で平均 60 台減少。渋滞長(日平均)については、板倉交差点で 740m(実験前)から 90m～670m(実験中)へ減少。 ・有料道路の交通量変化 約 640 台/日→約 1,230 台/日:約 590 台増	約 1.9 倍	部署:岡山市都市整備局土木部土木企画調整課 担当:山崎、平澤 住所:岡山市大供一丁目 1-1 TEL :086-803-1000(内線 3752) FAX:086-803-1742
広島県 呉市	広島呉道路 (呉～天応～坂)	<u>混雑緩和</u> ・並行する国道 31 号等の渋滞緩和 ・広島呉道路の利用促進	約 43%割引 / 呉-天応: H15.10.1-11.30/ 天応-坂: H15.11.1-30	・国道 31 号小屋浦地区の平日平均交通量が 6%減少(9 月:26,700 台/日→11 月 24,900 台/日)、小屋浦橋北詰交差点の渋滞長が平日最大で約 48%減少(9 月:約 2.5km→11 月:約 1.3km)、呉駅から坂駅間の所要時間が平日最大で約 35%短縮(9 月:33.6 分→11 月:22.0 分) ・有料道路の交通量変化 約 9,100 台/日→約 11,100 台/日:約 2,000 台増(天応～坂間)	約 1.2 倍	部署:呉市都市交通推進室 担当:松原、橋村 住所:呉市中央 4 - 1 - 6 TEL 0823-25-3239 FAX 0823-24-9645
広島市	山陽自動車道、広島岩国道路、広島高速 1 号線、広島高速 4 号線、草津沼田道路	<u>朝の通勤交通の混雑緩和</u> ・並行する国道 2 号西広島バイパス等の渋滞緩和	約 50%割引 (草津沼田有料道路は無料) / H15.10.14-12.19	・国道 2 号西広島バイパス(庚午)において、交通量は、約 9,000→約 8,900(台/3h)と微減。渋滞長は、4.5→3.6(km)に 0.9(km)短縮。旅行速度(廿日市 IC 出口～西広島 BP～紙屋町:17.4km)は、55→47(分)に 8(分)短縮。 ・県道広島中島線において、交通量は、約 2,080→1,900(台/3h)と 9%減少。渋滞長は、高速 1 号線と県道が合流する交差点で、県道側は、0.7→0.5(km)と 0.2(km)の短縮。広島東 IC より安芸府中道路入り口までの通過時間は、県道経由で約 21→19(分)に約 2(分)の短縮。 ・有料道路の交通量変化 約 2,000 台/日→約 2,600 台/日:約 600 台増(高速 4 号線)	約 1.1～1.7 倍	部署:広島市道路交通局道路部道路計画課 担当:橋國 住所:広島市中区国泰寺町 1-6-34 TEL 082-504-2727 FAX 082-504-2134

4 . 地方都市の沿道環境対策

都道府県	路線名	実験の目的	実験の方法 (割引率/実験期間)	実験の効果	高速・有料道路 の交通量変化	実験に関する問い合わせ先
長野県	白馬長野有料道路	夜間の沿道環境改善 ・並行する主要地方道長野大町線の夜間騒音等沿道環境の改善	一律 100 円(22:00 ~ 6:00) /H16.2.27 ~ H16.3.15 県独自実験 : H15.5.29 ~ H16.2.26,H16.3.16 ~ H16.3.31	・県道長野大町線の夜間大型交通量は約 28% (280 台 → 78 台) に減少 ・県道沿線の夜間騒音値が 4dB 減少 (67dB → 63dB) ・有料道路の夜間大型交通量が増加 約 376 台 → 約 565 台 : 約 200 台増	約 1.5 倍 (夜間大型交通量)	部署 : 長野県道路建設課 担当 : 下里 住所 : 長野県長野市大字南長野字幅下 692-2 TEL 026-232-0111 FAX 026-235-7391
茨城県	常磐自動車道 北関東自動車道 東水戸道路 首都圏中央連絡自動車道 常陸那珂有料道路 日立有料道路	大型車による沿道環境改善・混雑緩和 ・並行する国道 6 号等の環境負荷軽減 ・大型車の高速道路利用促進	大型 約 25%、特大 約 55% / H16.3.1-14	・大型車交通量が、国道 6 号の土浦、水戸、日立周辺の主要地点で、4% (土浦市荒川沖 : 約 5,510 台/日 → 約 5,270 台/日) ~ 9% (日立市田尻町 : 約 4,960 台/日 → 約 4,520 台/日) 減少。(中型車を含む断面交通量の対前年同時期比) ・事故件数が、17 件 (26 件 → 9 件) 減少。(大型貨物による死傷事故の対前年同時期比) 有料道路の交通量変化 約 2,900 台/日 → 約 3,400 台/日 : 約 500 台増 (大型車 + 特大車) (実験区間内 IC 相互間交通量の対前年同時期比)	約 1.2 倍 (大型車 + 特大車の実験区間内 IC 相互間交通量の対前年同時期比)	部署 : 茨城県土木部 道路建設課 担当 : 巢籠 住所 : 水戸市笠原町 978-6 TEL 029-301-4438 FAX 029-301-4449
静岡県	藤枝バイパス、掛川バイパス、磐田バイパス、浜名バイパス	混雑緩和・沿道環境改善 ・並行する国道 1 号(現道)等の渋滞緩和、沿道環境の改善等	実験 : 朝 3 時間無料 時間帯拡大 実験 : 夜 2 時間無料 時間帯拡大 /H15.11.4-H16.1.30	・一般国道の全車種交通量は 13% (8 百台/5h) ~ 39% (18 百台/5h) 減少、渋滞長では、最大 2,000m だったものがほぼ解消。騒音は 0.4 ~ 5.5dB 改善。 費用便益額 14.9 億円/3 ヶ月 ・有料道路の交通量変化 約 2,500 台/5h → 約 8,200 台/5h : 約 5,700 台増 (掛川)	約 1.2 ~ 3.3 倍 (実験実施時間帯 (5h) 断面交通量比較)	部署 : 静岡県土木部道路企画室 担当 : 石塚 住所 : 静岡市追手町 9 番 6 号 TEL 054-221-3013 FAX 054-221-3337

5 . 観光地における交通対策

都道府県	路線名	実験の目的	実験の方法 (割引率/実験期間)	実験の効果	高速・有料道路 の交通量変化	実験に関する問い合わせ先
福島県	磐梯山有料道路、 第二磐梯吾妻道路	観光交通の混雑緩和 ・周辺の国道 459 号、115 号の混雑緩和 ・観光客の誘致、周遊化の促進	30-40%割引 / H15.9.13-30	・国道 459 号の交通量が約 3%減少 (6,200 台/日 → 6,000 台/日)、有料道路分担率が約 9%増加 (17% → 26%) ・観光地への実験期間中総流入交通量が約 5%増加 (13,000 台 → 13,600 台)、観光周遊距離が約 25%増加 (34.3km → 43.0km) ・観光施設の約 3 割で立ち寄り客が増加したと認識 (アンケート結果) ・有料道路の交通量変化 約 430 台/日 → 約 630 台/日 : 約 200 台増	約 1.4 ~ 1.5 倍	部署 : 福島県土木部道路領域道路企画グループ 担当 : 目黒 住所 : 福島市杉妻町 2-16 TEL 024-521-7467 FAX 024-521-7951
徳島県 香川県 愛媛県 高知県	四国縦貫自動車道、 四国横断自動車道、 高松東道路、 今治小松自動車道	観光交通の混雑緩和 ・並行する国道 11 号、32 号、192 号等の渋滞緩和、沿道環境改善 ・四国内外の交流連携の拡大 ・主要都市、観光地周辺の交通分担率是正	約 25%割引 (周遊割引 チケットの追加割引) / H15.10.31-12.1	・社会実験を機に旅行をした新規誘発は、アンケート回答者全体の約 19% ・四国管内高速道路の平均日当たり交通量は、11 月で対前年度比 11.3%増加 (H14:11,566 台 → H15:12,868 台)。実験前後と比較し最大で 5 ポイント増加。(9 月対前年度比 6.3%増加 H14:11,774 台 → H15:12,532 台) ・実験期間中、約 1 万人が四国へ来訪 (チケット販売枚数:23,669 冊 × 平均乗車人数:2.86 人/台 × 四国外チケット利用者 15%) ・約 9 億円 (チケット販売枚数:23,669 冊 × 平均旅行消費額:38,300 円/台) にのぼる経済効果を発現、うち、新規誘発利用者による経済効果 (全体消費額:9.1 億円 × 新規誘発効果:19%) は約 1.7 億円	四国管内平均日交通量で約 3 ~ 5 ポイントの増加	部署 : 四国地方整備局道路部道路計画課 担当 : 石田 住所 : 高松市福岡町 4-26-32 TEL 087-851-8061 FAX 087-823-7809